

平成29年度新入社員教育研修会 業界編&交流会

日時：4月27日(木) 13:30~17:30 (研修会)
18:00~19:45 (交流会)
場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
ホール1A・大ホール

平成29年度「新入社員教育研修会 業界編&交流会」が4月27日(木)開催されました。

参加者数は26社207名となり、会場は入社して間もない緊張した面持ちの新入社員でいっぱいになりました。研修会は、人材開発委員会主催の講演会と、青年懇話会主催のグループワークの二部構成で実施されました。

講演会の最初は、株式会社ジールアソシエイツ 代表取締役社長 永門大輔氏による「ディスプレイ業界の基本の「ホ」」。

「一打合わせー笑い」、「真剣にやれ。ただ深刻にやるな」
永門氏が大事にしている2つの言葉で、新入社員の緊張をほぐしたあと、「体験」「驚き」「感動」という、ディスプレイ業界にとって大切なキーワードと、我々に求められている「リアル」の重要性を、4つの視点(①この業界の話、②リアルマーケティングの話、③ブランニングの大事な基本、④業界の変化)から話してくださいました。業界や時代の変化にともない、生活者の行動も変化し、「空間をつくる」のではなく「体験」を創っていくことが大切で、それを提言できるのは我々しかいないという力強い言葉が印象的でした。最後に「多くの人達の笑顔を創るのが我々の仕事」というメッ

セージとエールで締めくくっていただきました。
続いて、株式会社丹青社 文化空間事業部 開発統括部長 吉田清一郎氏による「宮古市津波遺構 たろう観光ホテルの足跡」。

①なぜディスプレイ会社が震災遺構の保存を手掛けたか、②震災遺構の果たす役割とは何か、③本業で東北復興に取り組む意義という3つのテーマに沿って、前例がなかったこのプロジェクトの全容を話してくださいました。保存か解体かの議論ではなく、震災遺構として地域にどう活用していくか、行政、地域、地元企業の方々、所属会社との粘り強い話し合いを重ねた背景を知ることができました。

展示室もない、被災したままの「たろう観光ホテル」そのものを、展示資料と捉え、業務で培った樹脂コーティングやエージング加工といった専門性や技術＝「自分たちの本業」で貢献することが、企業として東北復興へ関わる意義であると語ってくださいました。

「地域の魅力を再価値化し、地域の課題を解決することで豊かな社会を実現する」というご自身の想いは、最後に「想いをもって仕事に挑む」というメッセージとして新入社員へ贈られました。

広報委員 浅野敦司/株乃村工藝社

「ディスプレイ業界の基本の「ホ」」 株式会社ジールアソシエイツ 代表取締役 永門大輔氏



「宮古市津波遺構たろう観光ホテルの足跡」 株式会社丹青社 文化空間事業部 開発統括部 統括部長 吉田清一郎氏



新入社員研修会 青年懇話会パート(グループワーク・懇親会)

青年懇話会では研修会のグループワークと交流会を担当させていただきました。

当日は東デ協の所属企業から27名もの先輩社員さんにお越しいただき、名札づくりからグループワーク、先輩社員と語ろうと題した業界の質問コーナーまで、当日参加の新入社員を各社の先輩社員さんがフォローしていく形で進みま

した。
グループワークではコンセンサスゲームという、一人で行動を決めるのではなく、グループで話し合い答えを導き出すゲームを実施しました。

ゲームでは活発な意見交換が行なわれ、本来の目的である話し合いの結果生まれるコンセンサス(合意)の効果を体

感できたのではないのでしょうか。

続いて懇親会場へとホールを移し、交流会を行いました。
交流会でも各グループに先輩社員さんが加わり、当日講演もしていただいた永門社長プレゼンツのクイズ大会が行われました。講演と連動した内容のクイズでしたので、各チーム講演の内容を思いだしながら話し合い、ここでもグループワーク同様の活発な意見交換が行なわれました。

【新入社員研修会を終えて】

当日は新入社員、先輩社員、青年懇話会のメンバーまで、参加者全員が真剣にグループワークと向き合い、集団での意思疎通やコミュニケーション、対話の重要性を学ぶことができたのではないのでしょうか。

参加した皆様、お疲れさまでした。

青年懇話会 川和正典/株中村住装



交流会



写真提供：株式会社ビーオービー